

# 大豆除草剤ベンチオカーブ・ペンディメタリン・リニュロン粉粒剤の実用化

(農業試験場 技術部)

## 1 背景とねらい

大豆は輪作作物として経営安定化に有利であるほか、地域特産として付加価値を高めた生産が県内でもみられる。その中で、効果的な除草剤の使用は、省力生産のための重要な技術である。

ベンチオカーブ・ペンディメタリン・リニュロン粉粒剤（商品名：クリアターン細粒剤F）は、作用特性や適応草種が異なる3種の有効成分の混合剤であり、幅広い草種に安定した効果を示す有効な除草剤と認められたことから、普及に供する。

## 2 技術の内容

### (1) 除草剤名

商品名：クリアターン細粒剤F

成分名：ベンチオカーブ 8.0%、ペンディメタリン 0.8%、リニュロン 1.2%

剤型：暗黄色細粒及び微粒

毒性：人畜毒性 普通物相当

魚毒性 ベンチオカーブ、ペンディメタリン B類相当、リニュロン A類相当

### (2) 対象作物 大豆

### (3) 処理時期及び処理量

処理時期	処理量
播種直後（雑草発生前）	4～5kg/10a

### (4) 使用方法 土壌処理

### (5) 総使用回数

ベンチオカーブ（サターンバアロ粒剤）、ペンディメタリンまたはリニュロン（ロロックス水和剤）を含む薬剤を含めて、1回

### (6) 適用地帯・土壌 県下全域の火山灰土及び沖積土（過湿土壌及び砂質土壌は除く）

## 3 指導上の留意事項

### (1) 除草剤の特性

#### ア 作用機作及び殺草特性

	(吸収部位)	(作用機作)	(作用症状)
ベンチオカーブ	幼芽部、幼根	蛋白質合成阻害	生育抑制→枯死
ペンディメタリン	幼根、幼芽部	生長点の細胞分裂、細胞伸長阻害	生育抑制→ "
リニュロン	根部、茎葉部	光合成阻害	葉枯れ → "

#### イ 対象雑草・草種別効果

1年生のイネ科・広葉雑草に高い効果を示す。とくに、シロザ、イヌビユ、スベリヒユな

どの広葉雑草に対する効果は、プロメトリン・メトラクロール細粒剤（コダール細粒剤F）より高い。タデ類、ツユクサ、ノボロギクには効果がやや劣る場合がある。

ウ 安全性

製剤の人畜毒性については、普通物相当である。製剤の魚毒性については、成分のベンチオカーブ及びペンディメタリンはB類相当、リニュロンはA類相当である。

エ 作物に対する安全性

作物に対する安全性は比較的高い。しかし、砂質土壌では縮葉や生育抑制などの症状が発生する恐れがあり、また過湿土壌でも薬害が発生しやすい。

(2) 使用上の注意

ア 散布時期について

発生した雑草には効果が劣るので、播種後雑草が出芽する前に直ちに散布すること。

イ 散布方法について

砕土、整地、覆土はていねいに行い、全面に均一散布すること。土壌が極端に乾燥している場合は効果が劣る。

ウ 安全な使用について

洗浄水等の河川や排水路への流出を避けること。使用後の空袋は焼却すること。

4 試験成績

岩手農試（平成3年）

No.	除草剤名	処理量/10a
1	KUH-901	4kg
2	KUH-901	5kg
3	(比)プロメトリン・メトラクロール細粒	6kg
4	完全除草	—
5	無処理	—

作物名（品種）：大豆（ワセスズナリ）  
 土質土性・湿乾：火山灰壤土・やや乾  
 処理方法・時期：土壌処理・5月21日  
 （播種後1日）  
 除草剤名「KUH-901」が本剤

No.	残草量（生草重）対無処理区比率(6.26調査)								作物生育・収量				
	ヒ	I	北	イ科	スナリ	イ	ヨサ	非イ科	合計	主茎長	莢数	子実重	同差比
			小計	ヒ	ヒ		小計			(cm)	(g/m <sup>2</sup> )	(kg/a)	(%)
1	16	15	16	3	0	7	3	5	57	617	38.5	96	
2	4	0	3	2	1	10	3	3	58	673	38.0	97	
3	6	65	19	10	9	48	18	18	57	630	40.0	101	
4	—	—	—	—	—	—	—	—	61	673	39.7	(100)	
5	52.5	15.0	67.5	229.8	123.7	96.9	450.4	517.9	—	—	—	—	

注）無処理区の項はm<sup>2</sup>当たり残草量（生草重、単位g）を表示